

教育委員会会議の概要（令和2年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和2年7月10日（金）午後2時00分から午後4時58分まで
- ◆ 場 所 仙台市役所本庁舎 第1委員会室
- ◆ 出 席 者

| | | |
|-------------|--------|----|
| 教 育 長 | 佐々木 洋 | 出席 |
| 委員・教育長職務代理者 | 吉田 利弘 | 出席 |
| 委 員 | 花輪 公雄 | 出席 |
| 委 員 | 中村 尚子 | 出席 |
| 委 員 | 里村 正治 | 出席 |
| 委 員 | 阿子島 佳美 | 出席 |
| 委 員 | 梅田 真理 | 欠席 |

◆ 会議の概要

1 開 会

2 議事録署名委員の指名 中村委員

3 協議事項

（1）令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

教育指導課長 初めに、教科用図書の採択についてご説明申し上げます。

今年度は、令和3年度に使用する「中学校用教科書」、特別支援学校・特別支援学級で使用する「一般図書・文部科学省著作本」の採択を行うこととなるが、本日を含む4回の協議においては、これら教科用図書のうち、中学校用教科書、特別支援学校・特別支援学級用一般図書・文部科学省著作本についてご審議いただき、7月29日の定例教育委員会で、それぞれ採択をお願いしたい。

それでは、本日もご審議いただく中学校で使用する教科書の採択について説明させていただきます。

今年度においては、令和3年度に使用する新学習指導要領に基づく新しい中学校用教科書を新たに採択する。

中学校で使用する教科書について説明させていただきます。

今年度においては、令和元年度検定に合格し、令和2年4月文部科学省発行の「中学校用教科書目録（令和3年度使用）」に登載された全ての教科用図書の中から令和3年度に中学校で使用する教科書を採択する。

なお、7月2日に中学校並びに特別支援学校・特別支援学級それぞれで令和2年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会から教育委員会に対し、採択対象となる教科用図書の特長について協議した結果の報告が行われた。本日以降の審議に当たっては、この協議会報告書や調査研究委員会報告書等の内容も参考にさせていただきようお願いする。

大まかなスケジュールとしては、本日は、中学校用教科書の理科、美術、技術、家庭について協議し、7月14日、7月17日、7月22日に残りの中学校用教科書と特別支援教育関係の教科書についての協議をお願いする。

以上である。

教 育 長 委員の皆様、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 本日は、今年度の採択対象となる中学校用教科書4種目についての協議を行う。

協議の適正さ、公正さを確保する観点から、委員の皆様にも率直なご意見を述べていただくため、本日の協議の発言者においては、お手元の対応表に従い、発行者名ではなくA者・B者と呼ぶようお願いする。

なお、A、Bの記号は任意に振ったものであり、発行者番号順ではないので、ご了承ください。

したがって、本日使用する資料は、発行者名が記載されている別添1から5と別添11、12については採択手続終了まで非公開としている。そこで、傍聴においでの皆様へは、これらの資料を配付しないこととしている。教育委員会議事録が確定次第、当該資料を併せて市政情報センターにおいて閲覧できるようにするので、ご了承ください。

なお、別添6から8については宮城県教育委員会ホームページに、別添9から10は文部科学省ホームページに、同一の資料が掲載されている。

それでは、改めて事務局から配付資料について説明をお願いしたい。

教育指導課長 本日配付している資料について説明させていただく。

初めに、資料1は、宮城県教育委員会から示された「教科書の採択に係る基本方針」である。

次に、資料2は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用教科用図書採択基準【中学校 各教科】」である。

次に、資料3は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用教科用図書採択基準【中学校 特別の教科 道徳】」である。

次に、資料4は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）採択基準【特別支援学校及び特別支援学級】」である。これらは県内各採択地区において、適切な採択を確保するための援助として、宮城県教育委員会が作成したものである。

次に、資料5は、6月の臨時教育委員会で議決いただいた「令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択方針」である。

次に、資料6は、「令和3年度使用 中学校教科書 発行者 一覧」である。

続いて、別添資料について説明させていただく。

別添1は、「令和3年度使用 中学校教科書 発行者ABC対応表」である。

別添2は、「令和3年度仙台市立義務教育諸学校で使用される教科用図書の採択対象

となる教科用図書について（報告）【中学校】【特別支援学校・特別支援学級】協議会報告書」である。

この資料は、有識者、保護者代表、校長から構成された仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会で、それぞれの学校で使用する教科書の特長をまとめたものである。協議順に掲載してある。

別添3は、「令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料【中学校】調査研究委員会 報告書」である。

この資料は、中学校の校長、教頭等で構成された調査研究委員と主幹教諭、教諭で構成された専門委員が、専門的知見から各教科の教科書の調査研究を行い、報告書としてまとめている。なお、報告書は、県の採択基準に則った仙台市の採択の観点に基づく調査研究と学習指導要領に則った仙台市の採択の観点に基づく調査研究を1者につき1ページでまとめており、各教科書の特長を観点に沿って、網羅的に示したものである。

別添4は、「令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料【特別支援教育関係】調査研究委員会 報告書」である。

別添5は、「令和2年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会議事録」である。

別添6は、宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用教科用図書採択選定資料 中学校用」である。

別添7は、宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用教科用図書（中学校）選定資料 社会科（補助資料）」である。

別添8は、宮城県教育委員会から示された「令和3年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）選定資料」である。これらの選定資料は、資料1の宮城県教育委員会の採択基準の4つのカテゴリーについて、教科ごとに全発行者の特長をまとめたものである。

別添9は、令和2年4月に文部科学省から示された「中学校用教科書目録（令和3年度使用） 令和2年4月」である。

別添10は、令和2年4月に文部科学省から示された「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和3年度使用） 令和2年4月」である。

別添11は、「令和3年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）一覧（案）」である。

別添12は、「令和3年度使用 仙台市立特別支援学校及び特別支援学級教科用図書（文部科学省著作教科書）一覧（案）」である。

さらに、各教科の教科書と編修趣意書も机上に用意しているので、併せてご参照いただきたい。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等はあるか。

（質疑なし）

教 育 長 質問がなければ、協議に入る前にこれからの進め方についてお諮りしたい。

初めに、中学校用教科書の協議の進め方であるが、まず、事務局から学習指導要領における目標や協議会報告における各発行者の特長等について説明を受けた後、協議を行うこととしたい。

教科書見本本については、事前に事務局がお届けし、既にご覧いただいているものと思う。また、報告書等の各種資料にも既に目を通していただいていることから、こ

の場では特別に閲覧の時間は設定せず、協議に十分な時間を取りたいと考えている。

協議においては、まず各委員から、仙台市の採択方針の観点を踏まえて、協議会報告書や調査研究委員会報告書等を参考にしながら、発行者の特長、つまり優れたところについてご発言いただきたいと思う。

次に各委員から一通りご意見をいただいたところで、4者以上の発行者がある教科については、各委員から推薦する発行者を3者挙げていただき、推薦数の多い上位3者に絞って議論を進めてまいりたい。発行者が3者以下の教科については、こうした推薦の必要はないものとする。

このような形で絞り込んだ発行者の中から、再度、仙台市の採択の観点到に沿ってご意見をいただき、議論を深めながら、全員の合意の下、1者に絞り込んでまいりたい。

最終的な採択は、本日の議論を踏まえ、7月29日の定例教育委員会で確認の上、採択に係る議決を行いたいと思う。

以上の進め方について、ご異議はあるか。

(異議なし)

教 育 長 中学校用教科書については、本日以降、このような進め方で協議を行いたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

それでは、初めに中学校理科について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

教育指導課長 理科担当指導主事から説明させていただく。

指 導 主 事 中学校理科について説明する。

中学校理科では、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指し、「(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにすること」、「(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うこと」、「(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと」を目標としている。

新しい学習指導要領では、理科に関して、自然の事物・現象に進んで関わり、見通しを持って観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習を充実し、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活との関連を重視するという趣旨で内容が改訂され、理科の学習過程の特性を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うこと等、科学的に探究する学習活動を充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るようにすること、日常生活や他教科との関連を図ることのように、取扱い等が変化している。

協議会において取りまとめた中学校理科の全発行者の特長は、別添2の別紙1、1ページに示している。

主な特長については、まずA者は、巻末にホワイトボードとして機能するページがあり、発展的な学習につながるように工夫されているということである。

次に、B者は、学習課題、実験から考察までの要点の分かりやすい提示と、日常生活と関連付けるコラムの配置により、深い学びにつながるように工夫されているということである。

次に、C者は、観察、実験を中心とした学習を展開し、探究しようとする態度や思考力、判断力、表現力等を育成できるように配慮されているということである。

次に、D者は、「理科の学習の進め方」や「探究の進め方」で具体的な流れが掲載されており、学習過程が分かりやすいように配慮されているということである。

最後に、E者は、キャラクターによる対話の例を多く提示し、生徒がイメージや目的意識を持ち、主体的・対話的な学習につなげられるように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等はあるか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたいと思う。

中 村 委 員 まず、理科であるが、問題を発見し、そして仮説を立て、検証、実験をして、結果を得ていくという流れの中で、小学校からワンステップアップした、より科学的な内容となっているため、生徒が興味を持って授業を受けられるようにならなければならないと思っている。そんな中、各者ともよく工夫をされた教科書を作っているのではないかと思う。

では、A者から特長、良かったと思う点を述べさせていただきます。

A者であるが、各学年の巻頭に、「理科のトリセツ」があり、探究の進め方や理科の学習の方法、そして各学年で特に気を付けることが明示されており、どのようなことを学び、習得できるのかがしっかりと分かるようになっていくところが好ましい。

また、各単元の初めに、「ふり返ろう・つなげよう」というコーナーがあり、以前学んだことの一覧が示されており、新たな学習の前に振り返りができること、そして確認をしやすいことで、新たな学習にスムーズに入っていくことができるのではないかと思う。

「Can-Do List」では、どのように学び、どのような知識・技能を身に付け、それをどのように使うかが示されており、章の終わりにある「Can-Do List 自己チェック」で学習の理解を確認することができるようになっている。

単元の終わりには、「学びを日常にいかしたら」があり、学習内容を日常生活と関連付けて考えることができるようになっている。これは、科学や理科が、自分たちの生活に密接に関係しているということが生徒にも分かるようになっており、学習が定着し、自ら考える力が育つように工夫されている。

そして、「この時間の課題」と「この時間のまとめ」では、学習の定着がしっかりと図られるような工夫がなされている。「つながり」によって、他教科との関連が分かり、学習したことを活用しやすいような配慮がなされている。やはり自分たちの生活に密着しているということが分かると興味・関心が湧くのではないかと思った。環境問題や防災・減災、国際的な課題等、今日的な課題に関わる話題が示されているところも好ましい。

そして、巻末にはホワイトボードとして活用できるページがあり、話し合いに使用することができ、言語活動が充実し、主体的・対話的な学習に役立つと思った。

B者である。巻頭の「科学で調べていこう」は、これからの学習の過程が示されており、生徒たちが見通しを持って学習できるように工夫されている。また、形に特長があり、他者に比べやややスリムな形になっており、持ちやすさを感じた。

各単元の初めにある「この単元で学ぶこと」は、見通しを持って学習に取り組むこ

とができ、そこにつながる科学として歴史や自然の不思議等、内容に合ったものが掲載されており、興味を引く形になっている。

各章の初めに「Before & After」が設定されており、学習の前後で自分の考えを比較することができ、考えを客観的に見ることができるような工夫がなされていると感じた。

また、「from Japan 世界につながる科学」では、学習内容に沿ったものが示され、暮らし、自然、防災、働く人の紹介等、日本と世界の文化の理解につながっており、働く人の部分はキャリア教育にもつながるのではないかと思った。

単元の終わりに、「学習内容の整理」と「確かめと応用」があり、学習内容の確実な定着と発展的な学習へとつながるように工夫されている。

そして、「科学の本だな」では、学習の内容に合った本が紹介されている。物語ではない本を手にとることは、本離れが懸念されている生徒にとってはなかなかないことかもしれないが、とても面白いと思うし、物語に興味がない生徒にこういった形で紹介されるのは好ましいことだと思った。

「レッツ スタート！」や「科学のミカタ」等で、自分で考えたり、話し合ったりすることが促されており、主体的・対話的で深い学びができるように配慮されている。

C者である。生物や植物の写真がとても美しく、興味を引くように工夫されている。また、巻頭に「探究の過程」が示されており、探究的な学習の進め方がしっかりと分かるように工夫されている。

「科学コラム」では、日常生活や職業、防災・減災との関連が示され、理科がどのように私たちの生活に関わっているのかがしっかりと伝わるようになっている。「つながる学び」では、以前の学習を振り返ることができ、新たな学習につなげられるように工夫されている。章の終わりの「基本のチェック」や、単元末の「学習のまとめ」「力だめし」、一年のまとめとしての「学年末総合問題」では、段階を踏んで学習が定着できるように工夫されている。

そして、「考えてみよう」「話し合ってみよう」等では、自分の考えをまとめたり、発表したり、他者と意見を交換することで言語活動が充実し、対話的な活動ができるように配慮されている。「みんなで探Qクラブ」では、習得した知識や技能を活用して身近な問題を解決することで、学習の内容がより定着し、そして興味・関心を高め、学習意欲を高める工夫がなされている。「探Qシート」があり、これを活用し、自分の考えを他者の意見も参考にしながら深められるように工夫されている。

D者である。巻頭の「理科の学習の進め方」では、どのように自然の事物、そして現象を科学的に探究していくか、見通しを持って学習できるように工夫されている。また、単元の初めに「これまでに学習したこと」、章の中に「思い出そう」があり、以前の学習を振り返りながら新たな学習に入っていくことができるようになっている。「章末問題」「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」と、段階を踏んだ問題があり、基礎的知識や技能の習得から、思考力、判断力、表現力等、ステップアップできるように工夫されている。

各単元の終わりに「探究活動」が設けられており、これまでの学習を基に、課題を見つけて探究する活動を通して、主体的、そして対話的な活動ができるように工夫されている。「くらしの中の理科」や「Science Press」等、コラムが掲載されていることで、社会の中で科学はどのように活用されているのかが分かるようになっており、

新聞等、自分から探しに行かなくてはならないものと違い、興味・関心が湧きやすく、学習内容が日常生活と関連付けられるように工夫されている。

また、「日本を知る」「そのころの日本」のマークについて、日本の文化や歴史、伝統に関する内容が示されており、これらのことは理科を通して他教科との関連にもつなげていけるのではないかと思う。

E者である。巻頭の「探究の進め方」では、これからどのように進めていくのかが丁寧に示されており、学習にスムーズに入れるように工夫されている。各単元の初めにある「学んでいくこと」では、これまで学んできたことを踏まえ、これから学ぶ内容が示されていて、以前の学習とのつながりをより意識した導入となっている。

発展では、上位学年での学習との関連が示されており、これまでの学習を踏まえ、これからの学習に興味・関心が持てるように工夫されている。また、科学の話題を紹介する「ハローサイエンス」が掲載されているが、学習する内容が日常生活で活用されることを示しており、科学に対し、生徒が興味・関心を持つとともに主体的な学びに結び付くようになっている。

単元末に、「要点と重要用語の整理」、「基本問題」、学年の終わりに「学年末総合問題」があり、段階を踏んで学習が定着するように工夫されている。巻末には「自由研究」があり、興味を持ったことについて主体的な学びができるように配慮されている。さらに、幾つかある中から自分で選択し、好きなことを調べたり、研究したりすることができるという点がよい。

里 村 委 員 まず、A者であるが、科学の知識と考え方によって日常生活が成り立っているということや、日本の伝統文化を科学的な視点から取り上げた内容になっている。単元末の構成が、複数の資料を読み取り、日常生活との関連で考えさせる工夫がなされていると思う。

「理科のトリセツ」は、探究の過程が明確に示されており、主体的な学びを育てていく工夫がある。

B者である。巻頭で探究の過程が示されている。先ほど説明があつたが、新しい学習指導要領で探究ということが非常に大事に扱われているが、この探究の過程が示されているということで、生徒がこれから学ぶことの見通しを持ちやすい構成になっている。「例題」「考え方」での解説が充実しており、思考力、判断力等の育成に資すると思う。

仙台市では複数の資料を読み取って実生活における事象と関連付ける力を養うということが学力の課題になっているが、B者の章末に設定されている「学んだことをつなげよう」のコーナーが、そのための良い教材になっている。

また、単元の内容と記載順序に工夫の跡がうかがえ、1年生から3年生まで3年間にわたって科学への興味を持ち続けることができるような配慮がなされている。

C者である。紙面の構成や写真の使い方に生徒の学習意欲が高まるような工夫が随所に見られ、特に優れた編集の力がうかがえる。教科書を見ていて、はっとさせる写真も多い。自然に興味を湧くような内容になっていると思う。「考えてみよう」「話し合ってみよう」「思い出してみよう」等と、生徒に能動的に働きかける構成が優れている。

D者である。各単元において記載された内容から、理科という学問の厳格さ、あるいは厳しさを感じさせるような教科書になっているという感想を持った。各単元末に

「探究活動」を設けて、課題を解決していくという活動、これを通じて主体的で深い学びができる工夫がなされている。「章末問題」「まとめ」、あるいは「単元末問題」「読解力問題」といった流れで、生徒の能力を高めようとする工夫がうかがえる。

E者である。疑問を見つける、課題を決める、仮説を立てる、計画を立てる、観察する、実験する、こういった流れの中で探究の進め方を具体的に学ぶ道筋が示されており、理科の学習に当たって生徒の安心感につながるのではないかと思う。

また、巻頭に「探究の進め方」、各単元末に「要点と重要用語の整理」や「基本問題」が設けられており、生徒の学力向上に向けた具体的かつ分かりやすい教科書であり、いろいろな工夫がうかがえる。

吉 田 委 員 各者の特長を申し上げる前に、私とその特長を拾い上げた観点について申し上げる。

新学習指導要領が目指す資質・能力を育成するための授業改善の視点として主体的・対話的で深い学びの3つがある。例えば主体的な学びでは興味・関心、見通し、振り返り等、それらの視点を支える要素を主な基準にして各者の教科書を見させていただいた。理科だけでなく、他の教科も全て同じ考え方で見させていただいており、これらの基準は仙台市の採択の観点にも包含されるものと考えている。

では、A者である。まず、特長として、単元の初めにインパクトのある写真を掲載し、履修事項を振り返らせ、学習への動機付けを語っている。振り返りの在り方として、図や文章、説明等の表現方法を指定していることも効果的である。また、観察、実験の過程の道筋が小見出し等で示され、生徒が見通しを持って活動に臨めるようになっている。

振り返りの点については、単元の終わりに、単に知識や理解の定着を図るだけでなく、関心や態度面でのまとめが行えるとともに、生活の中に学習したことを生かせるような工夫がある点が特長である。さらに、生徒間の協働という対話的活動も、その振り返りの過程に設定されている点も特長といえる。

続いて、B者である。単元、小単元の初めに掲載されている写真と呼びかけが、科学の不思議を印象付け、学習への動機付けにつながるものと思われる。また、同時に紹介されている履修の確認と単元を通した学習内容は見通しを持った学習につながるものと思われる。

併せて、教科書サイズと関わりがあるが、1単位時間の授業が見開き2ページに収められていることも大きな特長である。振り返りについては、小單元ごとに基本的事項の確認、単元ごとに学習したことを整理する場面、設問を通した応用と活用の場面などがあり、さらに参考図書の紹介と、ステップを踏んだ丁寧な扱いがなされ、深い学びへと結びつくものではないかと思われる。

次に、C者である。C者もB者と同じように、単元、小単元の導入部分に科学の不思議を感じさせるような写真が掲載され、学習への関心を高めている。各時間に設けられている問いかけが学習課題となり、以後の学習への見通しにつながる設定となっている。単元の終わりに小単元の学習の再確認がなされ、さらにそれに関する問題が設定されており、学習の確かな定着を図ることを目指している。また、併設されている、生活の中に学習したことの関連事項を見だし探究する特設ページの活動は、深い学びへと発展させられる可能性があり、生徒間の協働的な活動も生み出すものと思われる。

続いて、D者である。D者もA者からC者と同様、各単元扉のダイナミックな写真

は生徒の興味・関心を高めるものと思われる。そして、続きのページにおいて2ページにわたり、これまで学習してきた内容に触れていることは、生徒の学習への動機付けに結び付くものと思われる。また、各学習項目の下に触れられている問かけの文章は、これからの学習への案内とも受け止めることができ、学習への見通しともなっている。

振り返りについては、他者同様、各単元に学習事項の確認、そして問題の設定となっているが、D者はさらに文章の読み取りを通した設問という形態となっており、科学リテラシーに結び付くような内容になっていることが特長である。また、併設されている科学に関するコラムも学習に深みを増すことに結び付くものと思われる。

最後に、E者である。E者もB者同様、単元と小単元の扉に掲載されている写真がダイナミックで科学の不思議を感じさせるもので、生徒の関心を高めるものと思われる。また、単元や小単元の導入部分に示されている簡単な履修事項の確認は、学習への動機付けに結び付くものと思われる。さらに、学習への見通しについては、実験や観察の場面で活動の内容がステップごとに示され、学習の流れを把握することに役立つものと思われる。

振り返りについては、単元末で学習したことの確認を行わせるとともに、「基本問題」で知識や理解の定着を図っている。また、単元の終わりに単元学習と関連したコラムを掲載しており、発展学習として深い学びに結び付くものと思われる。単元の学習内容にもよるが、各所に話し合いの提案が見られることも特長である。

花 輪 委 員 私なりに理科の学習目標をまとめると、私たちを取り巻く自然界に存在する物質と現象を科学的に探究する力を身に付けることだと理解している。この「探究する力」がキーワードであり、そのためにあらかじめ持つておくべき知識や技能、考えて判断するための力、その結果としての未知の物質や現象に対しても探究する姿勢を養うことが目標である。今回、5者から教科書の提案がなされているが、どの者も探究する力を身に付けさせようという基本的な方向性と意欲を持っており、各者それぞれの立場からの工夫が見られた。

初めに、外見的事項であるが、大きさが3種類ある。A B判が3者、A B判と高さが同じで幅がそれより小さいB 5判を採用しているのが1者、縦はA 4判の長さであるが幅はやや短い変形A 4判が1者である。3学年の総ページ数は、少ない者で約840ページ、多い者で1,000ページ弱と、150ページ強の差がある。しかし、実際に見てみると、活字、フォントの大きさ等の違いによるものであり、内容的にこのページ数の差が特に問題であるとは思わなかった。

以下、各者に対する寸評である。

まず、A者である。各学年の初めに、10ページないし20ページの分量の「理科のトリセツ」を設け、理科の学習に対する姿勢を毎学年ガイドしている点は大変良い工夫だと思う。また、イラストで先生や生徒を登場させ、探究する方向性のヒントを随所に与えている。巻末には、書いても容易に消せるホワイトボードを3学年とも取り入れており、仲間と議論し合いながら学ぶというアクティブ・ラーニングを意識して進めている教科書だと思う。写真、イラスト、グラフ等の配置など、デザインがシンプルで、見やすく、読みやすい教科書であると思った。

次に、B者である。大柄な変形A 4判を使用している。観察や実験について、手順や思考のプロセスを丁寧に追う内容になっているとの印象を持った。また、章末や単

元の最後のまとめ方では、ポイントを押さえるようになっており、充実している。さらに、単元の終わりには「from Japan 世界につながる科学」と題するコラムを設け、日本初の研究を紹介したり、「科学の本だな」において定評のある本を紹介したりしている点も科学に対する生徒の興味を広げる意味で良い工夫ではないかと思う。大判だけあって、この者も見やすく、読みやすい教科書であると思った。

C者である。この者は、各単元を①学習の導入から⑧学習の終わりまでの8段階で構成しており、分かりやすい流れであると思う。また、この者のユニークなところは、巻末に「探Qシート」がとじ込まれていることで、各単元で一組使うことになっている。授業の中でそのまま使え、ノートの作成例としても参考になるものだと思う。さらに、実験や観察では、安全を優先させる配慮を強調している点も特長だと思う。

この者は各学年とも、生徒に対して科学を身近なものにするための科学コラムを、一つ一つは短いものであるが、1学年当たり30から40と、多数掲載している点も特長である。

次に、D者である。この者は一番小さなB5判の教科書であるが、ページ数としては多い。この者は全般に、イラストの使い方に大きな工夫が見られる。一例を挙げれば、3年生の天体の動き等、理解しにくい複雑な現象を、イラストを使って上手に説明している点が印象的である。また、各単元の末尾も一貫しており、「探究活動」「まとめ」「単元末問題」が各2ページ、「読解力問題」コラム、「つながる」が各1ページずつあり、各単元を振り返る上で大変良い構成になっている。

最後にE者である。教科書の副題に「自然の探究」を掲げているように、この者も探究のプロセスを大事に扱った教科書となっている。特に、課題を決めた後、仮説を立てる段階を強調している印象を受けた。これを重視するためであろうか、名前は出て来ないが、イラストで生徒を登場させ議論をさせている。なお、イラストで先生を登場させていないという点もこの者の考え方であると感心した。

この者の教科書の大きな特長は、デザインがとてもシンプルなことである。イラスト、グラフ、写真の配列が、ページによって縦1列あるいは横1列等と統一されており、またフォントが大きいことで、他者にも増して生徒にとってフレンドリーで手に取りやすい教科書になっている。

阿子島委員 まず、A者である。巻頭の目次に続き、理科を学ぶ意義や学んだことが実社会でどのように活かされていくのかについて考えるためのページがあり、学習意欲が高められるように配慮されている。また、「理科のトリセツ」と題して、「探究の進め方」「授業を受けるコツ」「実験室を使うコツ」や自由研究と、主体的・対話的に深く学ぶことができるように基礎的・基本的な内容の習得の仕方が分かりやすく掲載されている。さらに、教科書の使い方も丁寧に説明されている。各単元の後には、「学びを日常にいかしたら」というページがあり、学習内容を整理し、興味・関心に応じた発展的な学習につなげられるように工夫されている。

各学年を通して、観察、実験におけるノート作りのヒントが示されており、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、自学自習等の発展的な学習に取り組んでいけるように配慮されている。

3年生の巻末には、「学校外で調べよう！」と、全国の科学館等の資料が掲載されている点も生徒自らの発展的な学習につなげられるので良いと思う。巻末にはホワイトボードが掲載されており、自らの考えの整理や、話し合い活動等にも役立つように

対応されている。全体がユニバーサルデザインに整えられており、文字の大きさや字間、色づかいや図の配置等のレイアウトの工夫により読みやすくなっている。

次に、B者である。巻頭の「科学で調べていこう」では、探究の過程が示されており、見通しを持って学習できるように工夫されている。また、導入部分の「レッツ スタート！」やコラム等、身の回りの事象について考えさせる場面が設定されており、生徒の意欲を高め、主体的に学びを進められるように工夫されている。「科学の本だな」で書籍を紹介している点も生徒の興味・関心を高める上で役立つと思う。

さらに、「つながる科学」では、暮らしと科学、防災と科学や、自然の不思議、科学の歴史等が随所に掲載されており、「from Japan 世界につながる科学」の2年生では、ニホニウムの発見が大きく取り上げられている。

各単元の最後には、「学習内容の整理」や「確かめと応用」が掲載されており、学習の定着が図られるように配慮されている。巻末の「学びを広げよう 自由研究」や「未来への科学」は、生徒の主体的、発展的な学習につなげようと配慮されている。巻末資料には、「理科の学習を深めよう」と校外の施設が紹介されており、仙台市科学館も掲載されている。このほか、1年生の火山の学習では蔵王の写真、地震の学習では気仙沼の写真が掲載されており、身近な話題が掲載されているので生徒の意欲を喚起する内容となっている。

全学年にペーパークラフトが付いている。A4スリム判の縦長サイズで、実験や観察の流れが順序よく縦に掲載されており、見やすいように工夫されている。

次に、C者である。冒頭、理科の学習を進める「探究の過程」が掲載されており、探究する態度を育てるとともに、思考力、判断力、表現力等を育て、高めていくように配慮されている。教科書の使い方も分かりやすく掲載されている。写真が豊富でインパクトがあり、生徒の興味・関心を高めるほか、身近な現象と結び付ける問題を示すなど、日常生活と関連付けて科学的に考えさせる工夫がなされている。

「科学コラム」も多く、「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」「深めるラボ」と、学習と関連する身近な話題を提供して生徒の学習意欲の向上につながるように配慮しながら、生徒の多様な個性や能力に広く対応している。2年生の「お仕事ラボ」には、ニホニウムの発見に成功した森田博士も掲載されている。

「みんなで探Qクラブ」や「ひろがる世界」は、生徒の自主的、発展的学習を促す上で役立つと思われる。巻末には「探Qシート」が掲載されており、他者の意見を参考にして自分の意見を深めることができるように工夫されている。「サイエンス資料」も多数掲載されており、3年生の教科書には日本の歴代ノーベル賞受賞者も掲載されている。

左右に広いA4判で色鮮やかな写真や図表、挿絵が多く取り入れられている。大きさや、レイアウトも見やすいように配置されている。

次に、D者である。巻頭の「理科の学習の進め方」や巻末の「探究の進め方」のページでは、具体的な学習の流れが掲載されており、学習過程が分かりやすいように配慮されている。また、各単元末の「探究活動 課題を見つけて探究しよう」では、生徒自身が自主的、発展的に探究できるよう工夫されている。さらに、各単元の最後に「まとめ」「単元末問題」が配置され、学習した内容を確認するとともに、それらを活用して課題を解決する発展的な内容が盛り込まれている。また、「読解力問題」では、学んだことを活用して考えたり、表現したりできるように配慮されている。巻末

の「自由研究にチャレンジしよう！」では、生徒が自主的に課題に取り組み、意欲を高めることができるように工夫されている。

なお、「行ってみよう！科学館・博物館」や、1年生の「ジオパークを見学してみよう」等の紹介は、理科の学習への関心を促す上で役立つと思われる。3年生の最後には、「科学のあゆみ」が掲載されている。また、2年生の「科学のあしあと」に、ニホニウムの発見者の森田博士、3年生には、日本人のノーベル賞受賞科学者が掲載されており、生徒の理科の学習と自分の将来への見通しが持てるように配慮されている。

1年生の東日本大震災に関する学習では、気仙沼港の写真も掲載されている。説明を補足する写真や図、グラフが大きくはっきりして見やすく、レイアウトのバランスも適切である。

最後にE者である。巻頭の「探究の進め方」では、各学年とも探究の過程を通して観察、実験等に関する基本的な技能や科学的に探究する力及び態度が身に付けられるように配慮されている。観察、実験、実習に加えて、「やってみよう」と「チャレンジ」が随所に設定されており、直接体験と問題解決のプロセスが重視されている。豊富な資料の中で、科学技術は生活や社会でどのように役立てられているのかが紹介されており、科学の有用性が感じられ、学習意欲が高まるように工夫されている。

単元の初めに「学んでいくこと」、章の初めに「これまでの学習」が示されており、学習内容やねらいが明確で、系統性を意識させる配列になっている。巻末の「自由研究」は主体的に学べる事例が多数掲載されている。また、「校外の施設を活用しよう」では、各地域の様々な施設が紹介されており、学校での学習に広がりを持たせることができるように工夫されている。

コラム「ハローサイエンス」が多数掲載されており、ニホニウムについても詳しく紹介されている。3年生の最後には、「探究の歴史」や「ノーベル賞を受賞した日本人科学者」が掲載されている。また、1年生は「生物カード」、2年生は「原子のモデルカード」、3年生は「星座早見表」が付いている。色鮮やかな写真を多く掲載することで、生徒の関心や知的好奇心が高められるように工夫されている。

教 育 長 それでは、皆様から、ご自身が推薦する発行者3者を挙げていただき、絞り込みを進めていきたいと思う。

先ほど発言していただいた流れの中で、まず中村委員からお願いしたい。

中 村 委 員 A者、B者、C者である。

里 村 委 員 B者、C者、D者である。

吉 田 委 員 B者、C者、E者である。

花 輪 委 員 B者、C者、E者である。

阿 子 島 委 員 B者、C者、D者である。

教 育 長 A者が1、B者が5、C者が5、D者が2、E者が2という結果になる。

それでは、B者とC者が5、D者とE者が2ということで、3者ということであれば、D者とE者どちらを残すかという議論を進めるか、全員がB者とC者を選んでいるという状況からB者とC者の2者に絞って議論を進めるか、2通り考えられるが、議論の進め方でご意見はあるか。

花 輪 委 員 5人とも2者を推しているということで、B者、C者の2者に絞って議論したらいかがか。

教 育 長 それでよろしいか。

(異議なし)

それでは、B者とC者、この2者について絞り込むということで議論を進めていきたいと思う。改めてこの2者についてご意見をいただき、1者に採択候補を絞ってきたい。

まず、このB者とC者について確認したいことや、ご質問、ご意見等があればお願いしたい。いかがか。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、この2者について、どちらの発行者の教科書が良いかご意見をいただき、1者に絞り込んでいく。この2者について、意見があればお願いしたい。

吉 田 委 員 どちらもそれぞれ工夫ある編集であると感じた。共通するところがたくさんあり、違いはポイント的になるのだが、見開きで1単位時間分が全て俯瞰できるという点が、子どもにとって1単位時間の学習の見通しを持つことに効果的である。

それからもう1つ、各単元のまとめは、どの者も大体同じような形態なのだが、B者についてはプラスアルファとして参考図書が紹介されており、もっと学びたい、もっと知りたいという生徒に学習の機会を提供するものになっている。それが深い学びに結び付くことと考えられるので、B者を推薦したい。

教 育 長 B者を推薦する意見をいただいたが、B者、C者どちらでも構わないのでご意見を聞かせていただきたい。

花 輪 委 員 今回の学習指導要領の改訂で、探究する力、探究がキーワードだと申し上げたが、段階を追ってどんどん考えて、仮説を立て、その仮説が間違っていたときには、どこで間違ったのか戻って考える、こういったプロセスを繰り返すことで科学する力が身に付いていくのだろう。

2者ともとても良い持ち味を出していると思うが、やはりB者の方が、その点においてやや工夫されていると思う。良い表現ではないのかもしれないが、一人一人が間違ってもいいので考えて、最終的に正しいかどうかは、実験等で確かめていけばよいということを奨励しているような印象を受けた。そういった点から、B者を推薦したい。

教 育 長 お二方からB者を推すご意見をいただいたが、ほかにご意見はないか。付け加える意見でも、異なる意見でも構わないので、お願いしたい。

里 村 委 員 私もB者、C者については、なかなか優劣つけがたいと思っている。どちらが良いのかというご質問は非常に厳しいものがある。事務局に確認したいのだが、現場の先生方からのネガティブな意見があれば少し配慮が必要であると思うが、B者、C者ともないのだろうか。現場の意見を確認できたらと思う。

教 育 長 現場の声としてどんなものがあるか出していただければと思う。

教育指導課長 教科書の展示会において、各学校の先生方に確認をいただいたが、B者、C者ともに、ネガティブな意見はなかった。全てこういったところがどちらの教科書も優れている、素晴らしいというご意見を頂戴している。

教 育 長 B者、C者のご意見をいただいたが、B者を推すということでよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、委員の総意ということで、理科についてはB者を採択の候補としたいと思う。

理科は以上で終わる。

続いて、美術に入りたいと思う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

教育指導課長 美術担当指導主事からご説明させていただく。

指導主事 美術について説明させていただく。

中学校美術では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指し、「(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにすること」、「(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにすること」、「(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うこと」を目標としている。

新しい学習指導要領では、美術に関し、「感性や想像力を働かせて、表現したり観賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、内容の改善を図る」、「生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る」の2つの指針で内容が改訂されている。

協議会において取りまとめた中学校美術の全発行者の特長は、別添2の別紙1、3ページにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、題材ごとに学習のポイントを示すとともに、対話的な学習の場面を設定し、主体的・対話的で深い学びが実現できるように配慮されているということである。

次に、B者は、身近な暮らしと美術作品との関連が分かるように丁寧な構想とするなど、生活や社会につながる工夫がなされているということである。

次に、C者は、3年間の学習内容の見通しや、発想を広げ、構想を練るための具体的な手立てが示されており、主体的に学ぶことができるように工夫されているということである。

教育長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等あればお願いしたい。

(質疑なし)

教育長 それでは、美術について、3者の教科書見本本の特長を皆様方からご意見を頂戴して進めていきたいと思う。

里村委員 その前に、確認しておきたい点があるがよろしいか。

美術では、表現と鑑賞という資質・能力についての区分があるが、新しい学習指導要領の方向性として、この表現と鑑賞との関係について、どのように指導がされているのか、もう一度確認したい。

指導主事 新学習指導要領の改訂の方向性の1つに、「感性や想像力を働かせて表現したり、鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように内容の改善を図る」とある。この背景には、これまで美術の授業では制作することが表現、見ることで鑑賞というように、表現と鑑賞を別のもので捉える傾向があったと考えられる。鑑賞は単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、自分の見方や考え方を大切に、知識などを活用しながら様々な視点で思いをめぐらせ、自分の中に新

しい意味や価値をつくり出す学習である。表現と鑑賞は大変密接に関係しており、表現の学習は鑑賞に生かされ、また鑑賞の学習は表現に生かされることで、一層充実した創造活動が展開されるという理由から改訂されている。

里 村 委 員 了解した。では、まずA者からである。美術の学習は、ただ美しいものを作ったり、見たりすることではないという考え方を徹底させる教科書になっており、独自性を感じる教科書である。

それから、美術を通じて、他の教科ではなかなか教えにくいことを教えようとする強い試みを感じられ、この点はA者の非常に良い特長だと思う。

効率の良い学習を展開することを目的に、2年生と3年生を1冊にまとめることになっている。表現と鑑賞の学習の深まりを促すために、豊富で多様な資料の提示が企画してあると考えられる。

B者であるが、表現と鑑賞のいずれも相互に関係を取りながら学んでいくのだということを強く意図した内容になっており、B者の特長だと思う。併せて、生徒の発達の段階を踏まえて、各学年の資質・能力に合わせた美術の学びを念頭に置いた教科書の編集になっている。

生活の中で触れられるデザインについての内容もあり、生徒の興味・関心を高められるような工夫がなされている。また、全ての題材において学びの目標が示されているということも、目標を意識しながら学べるように配慮されている。

C者であるが、端的に美しさをモチーフにした教科書ということを感じている。実際に使われている写真、映像などは、豊かな感性を育む上で大変優れた内容である。2年生、3年生は、表現と鑑賞を一体的に学ぶという試みで構成されており、非常に良くできている。

生徒の主体的な学びにつなげる工夫として、3年間の学習内容の見通しを立てやすく、具体的に手立てを示すような構成になっている点も良いと思う。

吉 田 委 員 引き続き、主体的、対話的で深い学びという3つの観点から各教科書を見させてもらった。ただし、対話的な学びの要素の中に「先哲の考え方を手掛かりに」というものがあるので、先人がつくった美術作品についての鑑賞は、主に対話的な学びの視点で見せていただいた。

まず、A者である。各領域の扉で、それぞれの領域で何を学ぶのかのメッセージが作家や作品の紹介とともに、一部学習の流れを示すなどして、美術を学ぶことへの興味・関心を高めている。見通しの面では、各題材の下に、知識と技能、発想や構想、そして意欲や態度の3つの観点の目標を示し、活動の指針としている。

また、表現活動のポイントとなる発想や構想の手掛かりになる新しい技法については、マーキングをし、学習の進め方に生かせるようにしている。そして、表現領域では、生徒の発想や構想の参考となる掲載作品が、生徒に見てとりやすいレイアウトになっている印象も受ける。

鑑賞活動については、原寸大の作品を掲載したり、部分拡大で示したりして、筆触や原画に近い色合いに近づけるなど、作者の工夫を感じ取らせるような意図が伝わってくる。特に鑑賞領域を中心に、鑑賞のポイントにつながるタイトル名がつけられていることで、見る視点を明らかにし、深い鑑賞思考へと発展させるものである。

続いて、B者である。まず、教科書全体の特長になるが、資料となる作品をダイナミックに掲載し、生徒の関心を高めるとともに、美を感じ取らせる手立てとしている。

また、それぞれの学習内容に合わせ、多様な作品が掲載されている。

学習への見通しについては、A者と同様に、3つの観点による目標が設定され、活動指針として位置付けている。また、生徒の作品に表現主題に関わる言葉が示され、発想や構想の参考になるものと考えられる。このことについては、A者もC者も同様の内容である。

鑑賞領域については、A者と同じように原寸大の作品を掲載したり、部分拡大で示したりしており、筆触や細部の色合いなどを感じ取らせるようにする意図が伝わってくる。

深い学びに関しては、「学びを支える資料」に一人の作家の発想方法を紹介し、主題と表現との関係性について理解を促し、豊かな表現活動や鑑賞活動に結び付けるような提案をしている。

最後にC者である。C者については、数多くの鑑賞作品を掲載し、生徒の美術への関心を高めようとすることに特長がある。学習の見通しの点については、他者と同じく、題材ごとに学習目標が設定されているが、表現領域においては2つの観点であることが特長である。一つは、造形目標、もう一つは鑑賞目標で構成され、まさに鑑賞と表現の一体化を意識させるような意図が感じられる。また、全ての表現題材において、発想や構想へと促す言葉が簡潔に示され、生徒の造形の手掛かりになると思われる。

鑑賞領域については、原寸大で掲載したり、一部の作品については本物の風合いを感じ取らせるために紙質を工夫するなどの配慮がなされている。

花輪委員 私なりにこの教科書の目的をまとめると、美術文化を鑑賞し楽しみ、自らも創造し楽しみ、そして生活の中に美術的要素を取り入れて人間社会を豊かにする力を身に付けることだと理解した。今回、3者から教科書の提案があったが、どの者もこの目的を達成するように工夫した良い教科書となっている。

大きさであるが、A4判が1者、A4判の縦の長さで横に2センチメートルほど広くした変型判を採用している者が2者あった。やはり美術だけあって大判が望ましいという判断だと思う。また、2者が1年生と2・3年生の2分冊、1者が1年生と2・3年生の上下の3分冊になっていた。総ページ数はほぼ同じで190ページ、分量もほぼ同じであった。内容も絵や彫刻等、デザインや工芸及び資料という3部構成をいずれの者も取っている。

以下、各者の寸評である。

A者についてである。この者は2分冊で構成されている。他者との比較の問題だが、鑑賞と創作を分けて扱っている印象を持った。実際、2・3年生の教科書では鑑賞で学ぶことを独立させ、日本と外国の美術の歴史を扱っている。絵画が1年生よりも2・3年生でより多く扱われているとの印象を受けた。また、2・3年生の最後に、まとめの単元として、「美術の力を生かして社会とかかわる」を設けているのが特長である。独特であるが、大変良い工夫だと思う。

次に、B者である。この者は3分冊で構成されている。全体を通じて、絵画、彫刻、デザイン、またアニメや漫画、さらに日本と外国の作品まで、これらを幅広くバランスよく題材として取り入れていると思った。どの者も、生徒の作品が随所に取り入れられており、中でも創作中の生徒の写真等も数多く取り入れている点がこの者の特長である。特に、2・3年生の絵の最初の教材である「今を生きる私へ」で、自画像を

描かせている。この課題も含めて、一人一人が感じたことを表現してみようというメッセージが強く出ている教科書だと思う。

C者である。この者は2分冊の構成である。1年生の教科書が、絵画や彫刻への鑑賞、創作よりも、身の回りの全てのものに美が宿っている、アートがあるのだと主張した構成になっていることがとても印象的であった。また、1年生の「学習を支える資料」の中で生徒たちに何でもトライして表現してみようと働きかけている点も特長ではないかと思う。

2・3年生の教科書では、どの者も美術史を扱っているものの、C者は単なる美術史ではなく、日本の歴史や、世界の歴史とその時代の美術工芸品を対峙させて美術史を紹介しているという点も特長だと思う。

阿子島委員 どの者もととてもきれいな教科書で、見ていてとても楽しかった。

では、A者からお話する。美術1の巻頭では、「図画工作から美術へ」のページを配して、小学校の図画工作から美術への関連と発展の学習内容を説明するとともに、「学びの地図 形と色彩の冒険に出よう！」と美術の世界を紹介している。題材ごとに学習の目標が明記されており、生徒が見通しを持って学習を進めることができるように工夫されている。

題材の内容は、発達の段階に応じて、組織的、系統的に配列され、表現と鑑賞を相互に関連付けて指導できるように配慮されている。また、基礎的・基本的な内容として、幅広い知識と技能を系統的にまとめ、「学びの資料」を巻末に設定し、確実な定着から発展的な内容構成まで、段階的に進めることができるようになっている。作品とともに作者の言葉を掲載し、作品と言語を通じてコミュニケーション能力を高めていけるように配慮されている。原寸大、部分拡大、見開きの大判資料を設けて、大きさや精細さを実感しながら鑑賞できるように配慮されている。

「暮らしに生きる美術」と題して、美術で学んだ力を社会の中で生かしている方々が紹介されており、キャリア教育にも役立てることができるように配慮されている。さらに、巻末の美術館の紹介は、生徒自身が発展的に学習する上で役立つと思われる。

次に、B者である。3分冊で構成されている。1年生の初めには「中学校美術の世界へようこそ」と題して、中学3年間の美術の学びが見通せるように、各学年の作品や活動が掲載されており、小学校とのつながりを押さえた始まりとなっている。カリキュラムを3年間見通して整理されており、基礎、発展、応用へと段階を踏まえた内容となっている。

また、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成にも配慮されている。さらに、様々な国や時代の美術作品と文化遺産をバランスよく取り上げていることから、生徒の興味・関心を高めるとともに、それぞれの文化を理解し、尊重する心の育成にも役立つものとなっている。

仙台市で開催された展覧会や県内の標識の写真が資料として掲載されているので、身近な生活に美術が繋がっていることが、より感じ取れると思う。

なお、学びの目標やサブタイトルを明記することで、学びを整理し、問題発見、解決能力、言語能力等の育成に配慮し、主体的・対話的で深い学びを実践できるように工夫されている。

巻末には、題材に関する資料を、「技法」「色彩」「鑑賞」に分けて「学習を支える資料」として掲載し、生徒が発展的に学習できるように配慮されている。見開き原

寸大の鑑賞図版を多く掲載し、作品の魅力がより伝わる鑑賞ができるようになっている。図版と写真の配置バランスも適切で、生徒の興味・関心を喚起できるように工夫されている。

次に、C者である。美術1では、図画工作とのつながりを考え、美術2・3では、身に付けた資質・能力を深め、歴史や社会との関係に視野を広げることで、段階的に学習意欲を高める構成になっている。美術1には、中学3年間で学習することが記載されており、生徒の学習の目安になるとともに、1年生で3年間の学習を見通すことができるように配慮されている。

また、美術科の目標を踏まえて、題材ごとに魅力的なタイトルと目標が分かりやすく明記され、身に付ける力や学習のねらいが生徒に明確に伝わるように配慮されている。題材ごとに表現する場面では、発想を広げ、構想を練るための具体的な手立てが示されており、それを手掛かりに生徒が主体的に学ぶことができるように工夫されている。さらに、題材の内容に応じて、表現、鑑賞と、領域を明記して分野ごとに構成しており、題材の配列や分量に配慮がうかがえる。歴史的な名作が取り上げられており、日本の歴史や他教科と関連付けて学べるように配慮されている。

巻末の「学習を支える資料」は、材料や用具の使い方等について、生徒が必要に応じて参照したり、学習に活用したりできるように工夫されている。

折り込みページは、作品によって和紙やトレーシングペーパー等が使われており、紙質の工夫によって作品の良さを感じ取れるように工夫されている。

中 村 委 員 各者ともとても美しい教科書になっており、私も見入ってしまった。

まず、A者からである。美術1の巻頭に、「図画工作から美術へ」、「学びの地図」があり、小学校の図画工作から中学の美術へスムーズに移行できるように工夫されている。「学びの地図」では、学習内容を順序立てて示しており、これからどのように学習が進むのか見通しを持って学習することができると思う。

作品とともに作者の言葉を掲載し、作品についてより深く学習できるような工夫がなされている。また、学習目標に、知識・技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力に関する目標が明記されており、生徒が見通しを持って学習に取り組むことができるように配慮されている。

また、これはA者、B者、C者に共通して言えることだが、折り込みのページの作品に、ダイナミックなものが掲載されており、生徒の興味・関心や、学習意欲が高め、主体的で対話的な学びにつながるように工夫されていると思った。

B者である。「中学校美術の世界へようこそ」として、美術にスムーズに移行できるように工夫されている。仙台市や宮城県の資料が掲載されており、より生徒が身近に感じながら美術を鑑賞したり、学んだりすることができる題材となっていると思う。そして、「学びの目標」に、視点、技能、発想、構想、鑑賞、さらに主体的に学習に取り組むための目標が明記されており、見通しを持って学習に取り組むことができるように配慮されている。

巻末の「学びを支える資料」では、基礎・基本となる技法や知識を視覚的に分かりやすく示している。作品とともに作者の言葉、また興味を広げるコラムを掲載し、発想、構想、鑑賞力を育てるように工夫され、主体的・対話的な学習ができるようになっている。

C者である。美術1では、小学校の図画工作から、美術へとスムーズに移行できる

ように工夫されている。巻末に「学習を支える資料」が設けられ、材料や用具の使い方等、生徒が参考にしながら学習ができるように工夫されている。各題材に学習目標が明記されており、また表現や鑑賞についても目標があり、見通しを持って主体的に学習ができるように配慮されている。

また、版面の紙質を変えたり、トレーシングペーパーを活用した学習ができるようになっており、生徒が興味・関心を持ち、主体的に学べるように工夫されている点も特長だと思う。

さらに、国語科とのつながりのように、他教科とのつながりを示すコラムを設けており、教科横断的な学習ができるように工夫されている。

教 育 長 委員から見本本についての特長を発言していただいた。

事務局に対して質問等があればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、これまでの議論を踏まえ、どの発行者の教科書がよろしいか意見をいただき、1者に絞り込んでいきたいと思う。3者それぞれに特長があるので、具体的な視点でも構わないので、ご意見をいただきたい。

里 村 委 員 私はB者を推薦したいと思う。

教 育 長 B者というご意見であるが、ほかの委員も自由にご発言いただければと思う。

吉 田 委 員 大変迷うところである。B者という発言が出たが、B者は鑑賞に重きを置いた編集内容で魅力がある。

一方、A者はどちらかというと表現領域とのバランスを取っているように思う。先ほど里村委員が型を超えた表現をしていく幅のある教科書だというようなことをおっしゃったが、そういう印象を受けるのがA者である。表現活動と鑑賞は、対等でなければならぬが、表現があって鑑賞にも深まりが出てくるという発想もできる。特に表現領域では、レイアウトが非常に簡素化されており、その簡素化された中に子どもたちの構想や、発想する余地が出てきそうな印象も受ける。それらを踏まえ、表現を先に持ってくるならばA者を推すという考え方もできるであろう。

阿 子 島 委 員 各者とも本当にきれいで、鑑賞したいと思わせる作品もたくさん掲載されており、すばらしい教科書である。

その中で、私はB者を推薦する。B者は、仙台に関わりのあるところが掲載されており、美術が身近に結び付いている点において一番分かりやすいという印象を受けた。

中 村 委 員 A者、B者、C者、それぞれとても良いところがあり、C者の版画物、材質、紙質を変えているところは、より生徒の興味を引くことができると思った。

ただ、B者は、鑑賞の部分にとっても力を入れており、生徒の興味・関心を引くような形になっているので、私はB者を推薦したい。

花 輪 委 員 3者とも本当に楽しく見させていただいた。どれも十分良い教科書だと思うが、少し衝撃を受けたことがB者にあった。先ほども申し上げたが、2・3年生の下の最初に、「今を生きる私へ」というページが4ページ分あるが、この点に衝撃を受けた。自画像を描き、自分で自分を見たらどう見えるのか、自分を見つめてみるという内容がこの教科書の巻頭にある。多くの有名な人たちがたくさん自画像を描き、変わっていく様子を見ることができる。これだけで決められるものではないが、その点からもB者は非常に印象的な教科書であった。私はB者で異議がない。

教 育 長 どちらかというところB者を推す意見が多かったが、吉田委員はA者とのお話をいただ

いた。吉田委員にB者についての意見を伺いたい。

吉田委員 鑑賞が充実しているのはB者である。2分冊の効果と思われるが、やはり鑑賞教材の豊かさという点はB者が良いと思う。視点を変えれば、他の委員と同じようにB者も良いと思う。

教育長 吉田委員の意見としては、表現を重視するのであればA者、鑑賞を重視するのであればB者ということである。

各委員からのご意見をいただき、美術の教科書については、B者ということによろしいか。

(異議なし)

教育長 それでは、美術についてはB者を採択の候補としてまとめていきたいと思う。

以上、美術について審議を終了する。

ここで休憩とする。

(休憩 午後3時42分～午後3時55分)

教育長 それでは協議を再開する。

次に、技術分野について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

教育指導課長 担当指導主事から説明させていただく。

指導主事 中学校技術・家庭（技術分野）について説明させていただく。

中学校技術・家庭では、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指し、「(1)生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする」、「(2)生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価、改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う」、「(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う」ことを目標としている。

新しい学習指導要領では、技術・家庭科に関して、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することや、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができる資質・能力の育成を目指すという趣旨で内容が改訂され、育成を目指す資質・能力を3つの柱に明確にし、全体に関わる目標を柱書きとして示し、技術分野の内容構成は現代社会で活用されている多様な技術を、「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の4つの内容に整理し、小学校における学習との接続を重視する視点から、「B生物育成の技術」に関する内容と、「Cエネルギー変換の技術」に関する内容の順序が入れ替わった。

協議会において取りまとめた中学校技術・家庭科（技術分野）の全発行者の特長は、別添2の別紙1、4ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、各領域で他教科や校種とのつながりがマークで示されており、環境教育や防災・減災教育等との関連が図りやすいように配慮されてい

るということである。

次に、B者は、「技術ハンドブック」により、基礎的技能について個々の実態に応じた学習が展開されるように配慮されているということである。

次に、C者は、「学びを深めよう」や、問題解決の手順を写真で分かりやすく提示することで生徒の主体的な学習につながるように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何か皆様方からご質問があればお願いしたい。
(質疑なし)

教 育 長 それでは、ここからは3者について意見を頂戴し、議論をしていきたいと思う。最終的に委員の皆様の合意の下、採択候補を1者に絞り込みたいと思う。

それでは、各発行者の教科書見本本にご意見をいただきたい。

花 輪 委 員 技術分野であるが、社会生活に必要な技術を習得し、実践することで、より豊かな生活を創造する力を身に付けることを目標としている教科書であると理解した。今回、3者から教科書の提案があったが、どの者もこの目的を達成するよう工夫した良い教科書となっている。

3者とも、A判か、それより若干小さな判で、本体は1分冊、290ページ前後である。B者のみ40ページの付録「技術ハンドブック」が付いている。内容は、「材料と加工の技術」「生物育成の技術」「エネルギー変換の技術」「情報の技術」の4分野であるが、学ぶときのプロセスや分量で各者に違いがあり、また工夫が見られる。

以下、各者の寸評である。

A者についてである。この者は、先の4分野を3つの観点で学ぶというマトリクス構造を採用している。1つ目の観点は、原理・法則と仕組みで学ぶパートである。2つ目の観点は、その技術による問題解決を学ぶパートであり、ここに実技が入っている。3つ目は、それらの技術と社会の発展を考えるパートである。最後のパートでは、現在、社会が抱える課題、技術への期待などが述べられており、個人として身に付けるべき技術、例えば木工技術と現代社会が期待する新しい技術がバランスよく盛り込まれている。

次に、B者である。この者は、先ほど言ったように「技術ハンドブック」という40ページ程度の別冊が付いている。この別冊は必要な技術項目がまとめられており、いつも手元に置いておくことできるものとなっている。学び方は、先ほどの4分野を、「つくって学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」の3章構成とし、第2章で自らが計画を立てて実行するようになっている。このため、巻末には「計画表にまとめよう」として、4枚の折り込みが入っている点が特長である。4分野の中では「情報の技術」の分野にページ数を割いており、特にこの部分に力を入れた教科書となっている。

C者についてである。この者は4分野でさらに小区分し、「知識技能を身につける」から、「問題の把握」、「設計・計画」、「実践」等々となっている。2つ目の「問題の把握」から、5つ目の「改善」までは、いわゆるPDCAサイクルを回すことに対応している。この者は、19ページ目までガイダンスを設け、教科のねらいをじっくり述べており、工夫がなされている。各分野の初めのページには、その技術に関する歴史的な流れを強調していることも良い工夫である。

また、大きなフォントで読みやすく、写真や図、イラストの配列がページによって、縦あるいは横と決まっており、見やすく読みやすい、生徒にフレンドリーな教科書に

なっている。

阿子島委員 いずれも写真や図版、イラスト等を用いて見やすく、生徒が興味・関心を持って学習できる教科書となっている。また、各者ともプログラミング等が詳しく記載されている。

では、A者から申し上げる。巻頭の目次に続き、「教科書の構成」「技術分野の学習方法」「作業を安全に楽しく進めよう！」等が掲載されており、教科書の使い方が生徒に分かりやすく説明されている。また、「技術分野のガイダンス」の中では、「未来を創る問題解決」として、問題を発見し、課題を設定した後に、設計・計画、制作、育成、成果の評価、改善・修正、そして新たな問題発見との流れになっている。これは生徒自身が自分自身の生活と結び付けて考えることができるようにしたためであり、社会での問題解決の例として、身近な事例から社会全体の事例まで幅広く収載されており、生徒の発達の段階や興味・関心を踏まえた学習活動が展開できる内容となっている。

さらに、「技術の匠」の紹介や「伝統文化」のマーク等があり、伝統的な技術への興味・関心を高めるとともに、学んだことを社会に生かすページ等があり、社会と技術学習のつながりを意識する上で有効だと考える。

小学校やほかの教科との関連、環境や防災等についてもマークで示されており、巻末の「プログラミング手帳」は、取り外すことができるので使いやすいと思う。また、各ページの下に「技術の工夫」が掲載されているのも良い点である。

次にB者である。目次に続いて、「この教科書の使い方」や「学習を楽しく安全に進めるために」「私たちの生活を支える技術」として、「環境を保全する技術」や「災害時に役立つ技術」「コミュニケーションを助ける技術」等が掲載されており、環境・防災・共生等と、生徒が生活の中で利用されている技術に関する学びを通して、生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度が育まれるように工夫されている。「技ビト」や「スゴ技」では、日本の技術力や伝統技術が掲載されており、ものづくりや伝統文化への理解を促すとともに、興味・関心を高めることができるように感じた。

また、生徒の発達の段階や多様な興味・関心を踏まえて実習できるように、実習題材例が多数収載されている。さらに、巻末にはワークシートの各計画表があり、別冊の「技術ハンドブック」には、生徒自身が実習で用いる技能等がまとめられており、安全に作業が行われるように配慮されている。なお、「学びを深め生かそう」や、「夢をかなえる技術」には、いろいろな問題解決例が掲載されており、「ファイナル」には「先輩からのメッセージ」や「博物館に行ってみよう！」と、発展的な技術のつながりを意識させるような学習内容になっている。

次にC者である。目次の後に「技術分野の学習を始める前に」、「作業の安全」「技術分野の学習の流れ」と「企業のものづくりの流れ」に続き「ガイダンス」の中で「技術の役割」「技術の見方・考え方」「技術と生活・産業」「技術のエネルギー・環境」「受け継がれ展開する技術」が掲載されており、身近な技術から近代的な技術までを網羅し、生徒が主体的に生活を送っていかうとする実践的な態度を育てる内容となるよう工夫されている。

また、各単元の始まりには、各技術の歴史、各ページの下には「豆知識」やページの右上には道具の写真が掲載されているなど、生徒が興味・関心を高める工夫がなされている。さらに、小学校や他教科との関連も初めに分かりやすく表示されている。

巻末には「日本各地の伝統的な技・材料・工芸Map」が掲載され、地域の伝統的な技術を取り上げて、日本の伝統文化や技術への理解を深められるように配慮されている。

問題解決の場面では、実習例が多数掲載され、地域や学校の実情に応じた豊富な資料や問題解決例が提示されており、生徒の実態に合わせて対応できるように工夫されている。

学習のまとめりごとに、「学習を振り返ろう」や「学びを深めよう」が設定されており、生徒が主体的に、かつ発展した学習が進められるように配慮されているとともに、「技術分野の学習をふり返り、私たちの未来へつなげよう」では、生徒の理解を高められるように工夫されている。

中 村 委 員 A者から申し上げる。「技術の匠」のコラムや「伝統文化」のマークが設定されており、伝統的な技術への興味・関心が高まるように工夫されていると感じた。また、日常生活や社会の中で活用されている技術を示しており、生徒が身近な問題として捉えることができ、主体的に学べるように工夫されていると思う。

学習が系統的に進められるように、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んでいるので、とても分かりやすい。「学習のまとめ」や問題解決カードを活用し、思考力、表現力等が養われるように配慮されている。編の初めには、「この編で学ぶこと」が掲載されているが、各章の初めには目標が明記されており、生徒たちが見通しを持って何を学習していくのかがはっきり分かるように配慮されている。また、「他教科とのつながり」が示されており、以前学習した内容や中学校における他教科との関連が分かるように工夫されており、興味・関心が広まっていくのではないかと思う。

B者である。日本の伝統技術や最新技術に従事している人々を紹介しており、学習内容への興味・関心が高まるように工夫されている。学習が「見つける」「学ぶ」「ふり返る」の流れになっており、とても分かりやすく学習ができるように配慮されている。

「技術ハンドブック」という別冊があり、いつも生徒が手元に置き、基礎技能について確実に学ぶことができるように工夫されている。内容項目が、「つくって学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」という共通構成になっており、技術の見方・考え方が段階を踏んで学べるようになっている。

学習した内容を基に問いかける発問が多くあり、充実した言語活動や主体的な学びができるようになっていると感じた。

C者である。巻頭にガイダンスがあり、とても丁寧に技術についての説明があり、技術との関わりが分かりやすく説明されている点が良いと思った。学習のまとめりごとに、学習のまとめりとして、「学習を振り返ろう」が設定されており、主体的で対話的な学びが充実するように工夫されている。「学びを深めよう」では、学習したことを踏まえ、主体的な学習につながるような工夫がなされているとともに、「リンク」マークを用い他教科との関連を図りながら学習できるように工夫されている。また、実習例が多く、様々なマークを使って分類されており、学習内容の定着につながるように工夫されていると感じた。

里 村 委 員 発行者ごとに寸評を申し上げる。

A者についてである。全体のまとめりが非常に優れており、問題発見、課題設定から問題解決に至る評価、改善、修正、このプロセスが技術ならではの構成になっている

と思う。生徒にとって自然に学習が進むように工夫された教科書であると思う。花輪委員からも話があったが、4つの分野と3つの学習プロセスからなる12のマトリックスで全体を整理した良い構成になっている。非常に特長的なこととして、テクノロジーの世界に導く教科書を目指していると感じられた。身の回りの材料と加工の技術から、エネルギー変換、ロボット、さらにプログラミングや情報セキュリティーに至るまで、広範囲のことを1つの教科書にまとめている。

B者は、身近な生活や社会で利用されている技術が幅広く取り上げられており、知識や技能を習得しようとする実践的な態度を育むことに力点があるように思う。特長なこととしては、問題解決的な学習や小中高の連携を強く意識したプログラミング言語学習など、こういったものを軸にして、新しい時代の技術の教科書を目指していることがうかがわれる。特にプログラミング等には特長があり、良い意味でシャープな内容になっているように思う。

別冊の「技術ハンドブック」にも工夫が見られ、工具やパソコンの使用手順や写真やイラスト等、分かりやすい内容になっている。

C者である。日常生活の中の技術から伝統技術、最先端技術まで、出典等を明示した図版や写真等を示しており、生徒の関心を高め、学習意欲を醸成させることにつながるのではないかと思う。授業ごとにねらいが適切に設定されており、とても分かりやすい教科書だと思う。技術の自然環境、日本の文化との関わりにも触れ、よくまとまっている内容と理解している。

また、科学的な根拠を基に、基礎的・基本的な内容を理解するように工夫されており、自ら設定した課題を解決に向けて活動するように生徒を導く内容になっていると思う。10ページから19ページまで「ガイダンス」があり、しっかりした内容が掲載されており、生徒にとって学びやすい教科書ではないかと思う。いずれにしても、技術への興味・関心を生徒に持続的に持たせ続けられるような内容に留意して編集したと感じさせる教科書である。

吉田委員 他の教科と同様に、3つの観点から見させていただいた。

まず、A者である。各単元の扉に、学習内容に合わせた様々なプロダクトや生産場面での工夫の様子を表した写真が掲載され、生徒の関心を高めるものと思われる。また、学習内容に関する多くの資料や解説を提示することにより、学びの方向をつかめるものになっている。理解については、単元ごとのまとめのコーナーを設け、知識、技能、思考力、そして発展学習へと結び付けている。ものをつくり出すに当たり、問題解決の在り方を生徒の身近な生活の中で考えさせる提案もなされており、深い学びに結び付くものと思われる。

続いて、B者である。B者もA者同様、単元の扉に学習内容に合わせたダイナミックな写真を掲載し、生徒の学習への関心を高めようとしていることが分かる。また、各章の導入部分でも、キャラクター同士の会話で学習への動機付けを図っている。実習における作業手順の解説が丁寧で、見通しを持って実習に臨むことができるものとなっている。振り返りについては、各時間のめあてと呼応した形で、自己評価の観点が表示されている。さらに、単元の振り返りについては、知識・技能の基本的なことだけでなく、思考力、判断力、表現力等についての振り返りや学習意欲に関するまとめを行っていることが特長である。単元ごとに、学習内容に関わる社会の要素や産業界の現状に触れ、発展的な学習へ結び付けていこうとする意図が感じられた。

最後にC者である。単元の初めの写真掲載は他者と同じであるが、学習内容に関する歴史的な流れを紹介している点が特長的である。学習の展開においては、動機付けとしての問いかけから始まり、学習内容のステップが分かりやすく紙面構成されている。中でも植物栽培の実習例が簡潔で見やすい印象を受けた。振り返りの点では、単元のまとめとして、学習事項の確認と定着度や理解度を自己評価させていることが特長である。また、併設して、学習内容に関するコラムを紹介し、学びを発展させ、深い学びへと結び付けている。さらに、生産物を生み出すに当たり、問題解決の在り方を日常生活や社会問題に広げて考えさせ、その中の数箇所でもトレードオフと最適化に触れていることが大変印象に残った。

教 育 長 各委員から見本の特長についてご意見をいただいた。

各委員の意見も踏まえながら、ご質問やご意見を示していただきたい。

里 村 委 員 念のための確認であるが、技術とこの後議論する家庭科は、発行者が必ずしも同じではなくてもいいという理解でよろしいか。

指 導 主 事 教育基本法の理念及び学習指導要領に示された内容項目に沿って教科書を編集しているもので、同じである必要はない。

教 育 長 ほかに、ご質問やご意見があればお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、3者の中でどの発行者の教科書がよろしいか、1者に絞ってご意見をいただきたいと思う。

里 村 委 員 議長のご指示に合わないのだが、1者ではなく、A者とC者を暫定的に推すということで、皆さんの議論を聞きたいと思うがよろしいか。

教 育 長 他の委員も色々なご意見があると思うので、それぞれ推したい教科書があればお願いしたい。

中 村 委 員 私はC者を推薦したいと思う。内容的にはどの者もとても良くできていると思うが、技術への興味を感じられる点や問題解決について、日常生活との結びつきや、自分が今まで行ってきた学習を取り入れるという点において、最も考えられているのがC者ではないかという印象を受けたので、C者を推薦したいと思う。

阿 子 島 委 員 私も、いずれもすばらしい教科書であり悩んだが、生徒が喜ぶと思う内容が書かれている「豆知識」や、道具が掲載されているC者の方が、楽しめる要素が含まれていると思うので、C者を推薦したい。

吉 田 委 員 A者についての特長を見ると、非常に丁寧であり、たくさんの情報が入っているという印象である。C者の場合は非常にシンプルという感じで、少ない資料から生徒に読み取らせることができるという印象で、反対の位置にあると思った。最も私が決定に特長付けたものは、トレードオフの考え方と最適化である。これは決して技術分野の問題だけではないが、我々が生きるに当たり、常にこのトレードオフの考え方は付いて回る。最適化を目指すというような考え方が、この技術分野を通して、この時代から耕されていくことはすばらしいことだと思う。そういった点からC者はトレードオフについて取り上げ、4か所で触れていることが、大きなポイントであり、良いと思う。

花 輪 委 員 似たような意見であるが、A者は多くの情報を盛り込んでいる。非常に参考になることがたくさん掲載されていると思うが、中学生という年代であること、いろいろな教科を学ばなければならないときに、情報がたくさんあることは良いことではあるが、

持て余さないかという印象を持った。

C者は、ご覧になっていただくとやはり違う。非常に分かりやすい。デザインが優れており、1つのまとまりが見開きのページ、あるいは4ページに収めている。全てをそのようにしているということは、多少取捨しているところもあるという裏返しだとは思いますが、何をポイントとしてつかめば良いのかということが分かりやすいデザインになっている。生徒にとっては親しみやすいのではないかと思います。そういう点から、C者を推したいと思う。

教 育 長 里村委員に伺うが、ほかの委員からはC者を推す声があったが、C者ということでよろしいか。

里 村 委 員 C者に決定することで、私は異議がない。

教 育 長 皆様方からいただいた意見を集約し、技術分野についてはC者を採択候補とすることよろしいか。

(異議なし)

教 育 長 そのようにさせていただく。

次に、家庭分野についての協議を行いたいと思う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

教育指導課長 担当指導主事から説明させていただく。

指 導 主 事 中学校技術・家庭（家庭分野）について説明させていただく。

中学校技術・家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することを目指し、「(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする」、「(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う」、「(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養うこと」を目標としている。

新しい学習指導要領では、技術・家庭科に関して、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢化社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することや、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができる資質・能力の育成を目指すという趣旨で内容が改訂された。

育成を目指す資質・能力を3つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書きとして示し、さらに家庭分野の内容構成は、小・中・高等学校の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるように、小・中学校は家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境の3つの内容に改善された。

協議会において取りまとめた中学校技術・家庭科(家庭分野)の全発行者の特長は、別添2の別紙1、5ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、「やってみよう」「つくってみよう」では、実習例が多く取り上げられ、実践的・体験的に知識や技能が身に付けられるように工夫されているということである。

次に、B者は、多種多様な実践例が掲載され、生徒の関心を高め、男女平等の人権尊重にも配慮されているということである。

次に、C者は、思考ツールを使うことにより、主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているということである。

教 育 長 それでは、ただいまの事務局の説明に対し、ご質問等があればお願いしたい。
(質疑なし)

教 育 長 それでは、ここからは3者について各委員の意見を頂戴し、議論を進めていきたい。最終的に、委員の皆様の合意の下、採択候補を1者に絞り込みたい。

吉 田 委 員 家庭分野においても同様に、3つの観点から教科書を見させていただいた。

まず、A者である。主体的な学びとして、巻頭、章ごとに、たくさんの写真やイラストで構成されており、学習に対する生徒の関心を高められる可能性を感じることができる。

1単位時間ごとに学習のめあてがあり、学習活動の方向性を示すものとなるとともに、学習過程においても、「調べてみよう」「体験してみよう」等の呼びかけがあり、何をすべきかを明らかにしている。

振り返りについては、各章の終わりで、「知識・技能」という基本事項でのまとめ、それから「思考・判断・表現」という面からのまとめをさせ、学習内容を発展的に振り返らせる問いかけをしている。

次に、対話的な学びについては、話し合い活動についても、各章の中で「話し合ってみよう」の投げかけが設定され、生徒間の話し合いを促している。

最後に、深い学びについては、章のまとめで、自分の言葉でまとめることを提案されており、知識や情報等を活用しながら思考し、表現する力の育成に結び付けることが考えられる。

続いて、B者である。まず、主体的な学びとして、各単元の初めに単元全体の学習内容に関する自己の興味・関心度を確認することから始めている点が特長である。見通しを持つという点では、各時間の初めに「学習の目標」等が設けられていることに加え、学習過程において、「考えてみよう」「やってみよう」「発表しよう」などの活動の方向を示す投げかけがあり、生徒にも何をすべきかが認識しやすくなっている。

振り返りについては、各章の終わりに、「ふり返り」コーナーが設けられており、文章でまとめる形式を取っているとともに、単元のまとめも知識・技能面と思考力、判断力、表現力等を育成する面で学んだことをまとめさせていることが特長である。

次に、対話的な学びにおいては、A者と同じように、章の各所に話し合いが提案されている。

また、深い学びについては、学習過程の中に、「考えてみよう」と違った視点から思考するような提案がなされていることや、各章の終わりに学習したことを生活に生かせるような提案をしているなど、更に深く考えさせる問いかけがなされ、学びを深めようとする編集の工夫が各所に感じられる。

そのほかの事項として、学習過程が分かりやすい編集になっており、特に調理実習においては、1年間の流れが把握できる構成になっていることが印象的であった。

C者である。まず、主体的な学びについてであるが、学習への興味・関心という点で、全体のガイダンスの中で各領域に関連する事項を多くの写真やイラストで紹介するとともに、各領域の扉に大きな写真を掲載し、生徒の関心を高めようとしている。

学習への見通しについては、各領域や各時間の冒頭に、学習の基本が設定され、生徒にとって何を目指して学習するのが認識できるようになっている。学習活動を振

り返ることについては、各時間のまとめと同時に、領域ごとに「学習のまとめ」のページが設定され、自己評価をする場面、学習事項の確認、そして生活へ生かすことの働きかけがなされている。また、コラム的に生活の様々な情報が紹介されているコーナーがあることも特長である。さらに、各種のシンキングツールが紹介されていることも深い学びに結び付けることができるものとする。

そのほかとして、各地のたくさんの郷土料理が写真で紹介されている点が圧巻であった。

花 輪 委 員 私なりにこの教科書をまとめると、家庭生活に必要な技術を習得し、実践することで、より豊かな家庭生活を創造する力を身に付けることを目標としていると理解した。今回、技術分野と同じ3者から教科書の提案があった。どの者もこの目的を達成するよう工夫した良い教科書となっているように思う。

それぞれの者の大きさであるが、技術分野と同じ大きさで、A B判相当である。3者とも分量は、290 ページから 300 ページとほぼ同じである。C者は巻末に「防災・減災手帳」を付録として加えている。

この教科書の内容であるが、指導主事から説明があったように、大きくは、家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境、この3分野で構成されているが、これらの扱う順序、その分量、そして分野内での章立てなどで各者に違いがある。また、工夫もそれぞれの者に見られる。

以下、各者に対する寸評である。

A者についてである。「くらしを創造する」が副題の教科書で、3つの分野で、その順序で並べられている。特に消費生活・環境にページ数を割いたつくりとなっている点が特長で、現代社会にマッチした教科書と言えるのではないかと思う。

イラストで多くの生徒と複数の先生を登場させており、これも他者との比較であるが、いろいろなところで学習を進める際の進捗を補助し、考え方の方向性やヒントを出している点が特長である。

B者についてである。3分野の並べ方はA者と同じである。学び方を知る上でガイダンスが丁寧につくられているという点が大変良い工夫だと思う。また、コラムに「先輩からのエール」があり、全体を通して 20 弱ほど散りばめられている点もこの教科書を身近なものにさせている。

どの者も巻末には課題と実践、つまり自分の生活を振り返ってみようとするが、特にこの者の課題と実践については、対応への指示が非常に具体的で分かりやすく、生徒たちが対応しやすいものとなっているのではないかと思う。

この者の教科書は、技術編と同じデザインである。非常に秀逸だと思う。どのページを開いてもこの者と分かるほど分かりやすい、生徒にフレンドリーな教科書となっていると思う。

C者についてである。「自立と共生を目指して」を副題とする教科書である。自ら生活をつくることとして、衣食住に関することを最初に学ぶ。次に、生活者としての意思決定として、内容名で言えば消費生活・環境を学ぶ。最後に、「ともに生きる」として、成長と家族、地域を学ぶというストーリーにしている点が他者とは異なる一番の特長である。この者の家庭に対する考え方が表れていると思った。

この者は多くの情報を盛り込んでいるが、全体的にイラストを多用して説明しており、分かりやすいものとなっている。また、イラストで生徒を登場させて、学びのガ

イド役を担わせている点も特長かと思う。

阿子島委員 まず、A者から申し上げる。冒頭、日本の年中行事と行事食が掲載され、また発展的な内容として世界の衣食住が写真やイラストを使って紹介されており、日本の文化や伝統及び諸外国を理解し、尊重する態度が育成されるように工夫されている。

さらに、教科書の構成についての説明に続き、「自分の課題をもって学習に取り組もう!」「私の成長と家庭分野の学習」と題して、小学校の内容との関連をマークで例示し、これまでの成長を振り返りながら生徒が中学校での学習を見通せるように配慮されている。

生徒にとって身近な題材や内容を取り上げ、身に付けた知識や技能を生かして実生活を送っていかうとする実践的な態度を育むように工夫されている。各内容は、導入、基礎的・基本的な学習内容、学習の振り返り、発展的な学習内容で構成されており、系統的に学習できるように配慮されている。

「センパイに聞こう!」が随所に掲載されており、学びを人生や社会に生かして活躍している方々の紹介を活用し、仙台市の自分づくり教育の視点にもつながる指導ができるものと感じた。

「やってみよう」「話し合ってみよう」など、実践的・体験的活動を通してできる実習題材が多く掲載されており、生徒が興味・関心を持って主体的に学べるように工夫されている。イラストや写真、図が効果的に配置されており、生徒が分かりやすく学習を進められるように配慮されている。

次にB者である。初めに、「家庭分野のガイダンス」が掲載されており、生きる力を育むために生活的自立の意味を理解し、各自が目標を持って実践的できる内容、他者との共生を目指すことができるように工夫されている。また、主体的・対話的で深い学びをしようと各項目で導入課題を設定したり、「生活の課題と実践」では、自分の生活に生かすための多様な課題例を設定したりするなど、学習意欲を喚起する工夫がなされている。

「地域の食文化」では、「日本各地の郷土料理」や「行事食」を掲載するなど、日本や世界の伝統文化を多く掲載し、生活の視点で地域社会から世界へ視野が広がるように工夫されている。また、「先輩からのエール」が随所に掲載されており、多様な職種で働いている人からのメッセージは、生徒が自分の将来を考えるための参考になり、こちらも仙台市の自分づくり教育につなげることができるものだと思う。

項目ごとに学習目標が明確に示されており、どの分野も実践的・体験的な学習内容を中心としたまとまりがあるように工夫されている。小さな課題の配置や豊富な実習、実践材料、「ふり返り」「生活にいかそう」等によって、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫がなされている。写真やイラスト等が多数用いられて、生徒が関心を持って学習を進められるように配慮されているとともに、カラーユニバーサルデザインの視点から、読み取りやすい色の配慮がなされている。

次にC者である。冒頭、目次、教科書の構成に続いて、「家庭分野のガイダンス」が掲載されており、小学校家庭科の学習を振り返りながら、中学校で学習していくこと等が説明されている。また、各章の冒頭に目標が明示されており、学習のまとまりごとに見通しを持って取り組めるように配慮されている。

日本の伝統文化への理解を深め、良さや大切さが実感できるように、日本の食文化や日本の衣文化等が掲載されている。

さらに、災害への対策では、地域の人との防災訓練の写真に仙台市の写真が掲載されている。また、巻末には「防災・減災手帳」が付いている点も良い。

「プロに聞く！」では、学んだことを社会に生かして活躍している方々が紹介されており、こちらも仙台市の自分づくり教育へとつなげられるものと感じた。生徒自身が生活の中から課題を見つけられるような「生活に生かそう」や「活動例」が多く掲載されており、生徒が主体的に解決していく力を身に付けられるよう工夫されている。

教科書の下には「せいかつメモ」が記載されており、写真やイラスト、漫画を用いて、生徒が興味・関心を持って学習に取り組むことができるように工夫されている。

中 村 委 員 それでは、A者から申し上げる。まず、「センパイに聞こう！」という掲載があり、学習内容が身近な題材となるように工夫されている。そして、学習が、「見つめる」「学ぶ」「振り返る」の流れになっており、とても分かりやすく学習できるように配慮されている。「話し合ってみよう」「発表してみよう」「聞いてみよう」が設けられ、言語活動が充実し、対話的な学習がより深くできるように配慮されている。また、「考えてみよう」「調べてみよう」等が多く掲載されており、興味・関心を高め、主体的な学習ができるように工夫されている。

日本の伝統的な行事と食事、そして世界の衣食住が紹介されており、日本の伝統文化や諸外国の理解にもつながると思った。

また、学習を生かし、各章の終わりに、自分の課題に取り組めるようにページが見開きで分かりやすく掲載され、深い学びができるようになっている。

B者である。まず、「先輩からのエール」で、キャリア教育という点でも自分の将来を考える上で参考になり、社会的な自立へとつながるように工夫されている。学習の目標が明示されており、見通しを持って生徒たちが学習できるように工夫されている。「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」という設定があり、言語活動が充実し、主体的で対話的な学習ができるような工夫もなされている。

各学習内容の初めにある「わたしの興味・関心」により、生活の中の問題点を自分のものとして主体的に学習できると思った。また、日本や世界の伝統文化が掲載されており、生活の視点で地域社会から世界へと視野が広がるように工夫されている。「生活にいかそう」というコーナーがあり、学習したことを踏まえ、主体的な学びができるように配慮されている。

C者である。まず、「プロに聞く！」というコーナーが設けられており、自分の将来を考える上でとても参考になり、職業観や勤労観の育成にもつながるように工夫されている。「伝統文化」マークがあり、日本の伝統文化の良さや大切さが分かるようになっている。「話し合ってみよう」「やってみよう」等が設けられており、言語活動が充実し、主体的で対話的な学びができるように工夫されている。

基本ページや学習のまとめの中に掲載されている「生活にいかそう」では、自分自身の課題として考えられるようになっており、主体的な学習に取り組めるように工夫されている。ガイダンスが充実しており、今後どのように学習が進んでいくのかという見通しを持って学習できるようになっている。また、日本各地の郷土料理の写真がとても印象的であった。

里 村 委 員 A者である。「自立度チェック」では、学びの中で自らチェックできるようになっている。また、進路や将来を考えるきっかけとなるように、各章末に「センパイに聞

こう！」というコーナーを掲載するなど、能動的に生徒に働きかける教科書になっている。

もう1つ、自主性とか自立の精神を養おうということを目的にしていると思うのだが、主体的に社会の発展に寄与する態度を育むことができるように工夫されている。それから現代的なテーマであるが、環境保全や国際社会の発展などに関する現代的な課題を提示しており、課題を解決する力を養うことを目指していると思う。

他者も同様であるが、「リンク」マークを付けて他教科や小学校の学習との関連性を示すことで、幅広く知識が身に付くように配慮されている。

B者である。基礎から応用への展開に工夫が見られ、各分野のガイダンスが丁寧に掲載されており、生徒の興味や関心を高めることにつながるといった。「考えてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」など、生徒に能動的に働きかけることに留意した教科書である。

生徒への問題提起を惹起させるような内容になっており、生徒が授業に円滑に取り組めるような工夫、配慮がなされている。図版は、より大きく見やすくなっており、文字も読みやすくするなど、随所に細かい配慮がなされている。

C者である。何と云っても特長は、掲載されている内容が豊富でとても充実しているということである。さらに、「学習のまとめ」欄では、学んだことの振り返りができ、かつ生活に生かすことに導くような項目が設けられている。「リンク」では、他教科との関連を示して、横断的に学力が定着するような配慮がなされている。

教 育 長 各委員の皆様から見本の特長についてご意見いただいた。さらに、事務局へ確認したいことや、ご意見があれば、それぞれお願いしたい。

(質疑なし)

教 育 長 それでは、これまでの皆様方のご意見を踏まえ、どの発行者の教科書がよろしいのか、各委員1者に絞っていただき、ご意見を頂戴したい。

花 輪 委 員 先ほどの技術分野のときと同じような観点なのだが、一つ一つのまとまりが分かりやすいかという観点からすると、やはりB者は優れていると思う。一つ一つの題で記述されている点が分かりやすくすっきりとしている。ここがこの者の特長であり、良いところだと思う。生徒たちもこの教科書を開いて見たとき、学ぼうという気持ちにさせるような構成となっていると私は思う。

阿 子 島 委 員 各者ともそれぞれに特長があり、1冊家に置いておきたいと思うような教科書である。その中で、同じ項目を比べてみると、やはり色彩的なものや、イラスト等が分かりやすいのはB者だと思うので、B者を推薦したい。

吉 田 委 員 どの者も各単元、そして一単位時間の学習目標を達成させようと、たくさんの資料や提案、コラム等が掲載されている。同じような内容を掲載しているのだが、不思議と読み取りやすいという印象を受けるのがB者である。活字も余裕を持って配置されているということで、生徒たちにとっては、開いたときに、「何を学ぶのか、何を活用すればいいのかということが一目瞭然」という印象を与えるので、B者を推薦したい。

中 村 委 員 私もB者を推薦したい。吉田委員が発言されたことと同じで、見やすさという点でもB者はすっきりとまとまっており、とても見やすい。自分が学ぶのであれば、こういう方がいいなと感じた。また、私は主婦であるが、これを家に置いておきたいなと感じる本である。

里 村 委 員 皆様のご意見を聞き、私も特に異存はない。B者を推したいと思う。

教 育 長 委員からご意見をいただき、B者を採択の候補としたいと思うが、よろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、B者を採択の候補とし、最終的には7月29日に決定したい。

以上で、令和3年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書(中学校)の採択についての協議を終了する。

4 閉 会